

## 春日野荘建設予定地の発掘

1969年度歴史研究室・平城宮跡発掘調査部の調査 4

公立学校共済組合春日野荘は、法蓮町一条通りの北側の旧奈良高校跡に移転新築することを予定したので、調査部は、奈良県教育委員会の委嘱を受けてその事前調査をおこなった。調査は1969年11月26日から12月23日まで実施し、8.6aの範囲を発掘した。

建設予定地は、興福院周辺から一条通りにかけてなだらかにのびる丘陵の末端部にあり、平城京二条五坊の北郊、京東条里の一条一里にあたる。

調査地域の南部で、東西棟の掘立柱建物（12間以上×3間以上、柱間寸法：桁行2.97m、梁行2.38m）1棟を検出した。この建物の南廂の部分には、柱根4本（径0.3m内外）が遺存していたのをはじめ、柱穴（深さ0.4m内外）が比較的よく残っていた。しかし、身舎にあたる部分では削平のため柱穴は残っておらず、その本来の規模を知ることはできなかった。掘立柱建物の柱掘りかた・柱抜きとり穴からは遺物がほとんど出上しなかったが、柱間の寸法、および周辺の出上遺物からみて、この掘立柱建物が、1954年に、今回の調査地区の北方60mで検出された掘立柱建物<sup>(1)</sup>と同様、奈良時代の建物であることは明らかである。

なお、この建物は桁行方向について11間分まで検出したが、発掘地区の範囲内では、西の妻柱は存在せず、さらに西の奈良県教育センター構内にのびていることがわかった。

掘立柱建物の身舎にあたる位置で、中世の井戸1基（方0.9m）を検出した。枠は縦板組み、底には礫を敷きつめ、その中央に、曲物（径0.42m 高さ0.45m）を4段うめこんでいた。井戸の埋没時の埋土からは、瓦器・土師器・須恵器などが出土した。

発掘地区中央部には、東から西に流れる古墳時代の溝（幅5～10m、深さ0.4m）がある。か

なりの量の土師器と少量の須恵器、木片が出上した。このほか、発掘地区の北では、浅い土壇・小穴などがあるが、その下部がのこっているにすぎず、その多くは旧奈良高校建設の際に削平をうけたとみられる。

遺物には、軒丸瓦（6311型式）、軒平瓦（6664型式・6644型式）、土師器・須恵器・瓦器などがある。

註 1 鈴木嘉吉「奈良高校校庭に於ける掘立柱建物遺構」（大和文化研究 第2巻第5号 1954.10）。

（小笠原好彦）

第1-4 春日野荘建設予定地の遺構配置図